

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

6月前半着	1,079.25	(30.00)
6月後半着	1,072.75	(28.25)
7月前半着	1,067.75	(26.75)
7月後半着	1,064.25	(25.75)
8月前半着	1,061.50	(25.25)

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月後半着	+14.00	+8.25
6月前半着	+11.25	+7.00
6月後半着	+7.88	+4.75
7月前半着	+5.38	+2.88

算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	JUN
WTI	111.92
BRENT	124.30

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

[マーケットコメント]

20 日のナフサ C&F JAPAN は 1051.75 ドルと大幅反発、クラックスブレッドは反発。アジアのファンダメンタルズは、再び逼迫した状態が強まっている。5 月到着玉は裁定玉の流入が大幅に減少したことで、供給不足の状態にあったが、今後欧州からの裁定玉が増大するとの見方やマージン悪化によるクラッカーの減産、中東のリファイナリーが定修から立ち上がることなどのベアな要因から、徐々にその逼迫感が弱まるとみられていた。大方の見方では、5 月到着玉までタイトな状況で、6 月到着玉から急激に需給が緩和することが想定されていた。しかし、実際は緩むことがなく、6 月前半到着玉に対してもタイトであることが判明し、慌てて買戻しが入るも売り手が見られなかったことで、バックワーデーションは急速に拡大した。欧州市場でもタイトな状況は続いており、余剰玉が見られていない。プラツタイムは買い手が積極的な動きを見せ、クラックスブレッドは反発した。本日のアジア市場は、需給タイト感を背景に引き続き堅調な動きとなる。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサMOF価格				国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	速・確報値/(前日比)	予想値/評価値	速報値/(前日比)
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	891.37	82.49	51,101	(±0)		
11-1Q			50,120		52,100	(±0)
11-Apr	983.41	82.45	56,350	(13)		
11-May	1,045.03	82.30	59,776	(99)		
11-Jun	1,075.42	82.31	61,521	(962)		
11-2Q			59,216		61,200	(300)
11-Jul	1,073.38	82.33	61,415	(1,074)		
11-Aug	1,069.74	82.34	61,220	(1,080)		
11-Sep	1,067.08	82.36	61,083	(1,094)		
11-3Q			61,239		63,200	(1,000)
11-Oct	1,065.00	82.39	60,982	(1,101)		
11-Nov	1,063.07	82.41	60,890	(1,106)		
11-Dec	1,061.27	82.44	60,809	(1,118)		
11-4Q			60,894		62,900	(1,100)
12-Jan	1,059.29	82.48	60,723	(1,125)		
12-Feb	1,056.86	82.52	60,613	(1,127)		
12-Mar	1,053.92	82.56	60,473	(1,129)		
12-1Q			60,603		62,600	(1,100)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

[ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2100 円と予想値に変更はない。為替通関レートは円高に振れたものの、本日のナフサ C&F JAPAN 評価値の上昇想定幅が大きく上回り、MOF 評価値は値を上げることが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 300 円高の 6 万 1200 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	JUN	111.45	(3.17)
	JUL	111.91	(3.18)
ICE / BRENT	JUN	123.85	(2.52)
	JUL	123.50	(2.47)

Oil Products(セント/gal)(ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	327.73	(4.42)
NYMEX / Heating Oil	MAY	322.14	(6.29)
ICE / Gas OIL	MAY	1,020.50	(20.25)

マーケットコメント

20日の原油相場は、ロンドン市場、NY市場ともに大幅上昇。ドル安進行や株価上昇、原油在庫の予想外の減少を背景に買いが先行した。この日から当限に回ったWTI期近6月限は、節目の110ドルを上抜き、前日比3.17ドル高の111.45ドルで取引を終えた。ブレント期近6月限も強含みで推移し、一時124.23ドルまで上昇した。

金融市場全般の流れと独自のファンダメンタルズの両側面からの買いが集まった。スペイン国債入札で需要が拡大し、欧州中央銀行(ECB)の追加利上げ観測が強まったことでユーロが買い優勢となるなか、予想を大幅に上回る企業決算により株価が上昇したことで、逃避先としてのドル需要が後退した。ユーロ/ドルは一時2010年1月以来の高値を付け、ドル安を背景にコモディティ市場への資金流入に拍車がかかった。金相場は過去最高値を更新、銀相場も31年ぶりの高値を記録した。また、NYダウは2年10カ月ぶりの高値で引けるなど株式市場も強く推移し、投資家心理がリスク選好へと傾いたことも支援材料となった。好決算による株価上昇は、景気の先行きに対する強気な見方も誘い、これも原油買いに繋がった。これら金融市場全般が原油相場の上昇要因となったほか、需給ファンダメンタルズ面からの買いも入った。米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間石油統計で、原油在庫は予想に反して減少、石油製品在庫の取り崩しも進んでおり、先行きの需給引き締まりを懸念した買いも入り、市場の強気ムードは一段と強まった。

トピックス

「原油在庫、予想外の減少 = EIA」

エネルギー情報局(EIA)が発表した週間石油統計(4月15日までの1週間)によると、原油在庫は前週比232万2000バレル減の3億5696万9000バレルと、事前予想(110万バレル増)に反して7週ぶりの減少となった。在庫水準は前年同期比0.3%増と前週の1.5%増からプラス幅を縮小。生産量は日量562万5000バレル(前週比1万バレル減)と小幅に減少し、輸入量は同805万3000バレル(同51万8000バレル減)と大きく減少した。供給量が減少するなか、製油所への総投入量は同1459万5000バレル(同18万9000バレル増)と増加し、投入量の増加から製油所稼働率は82.49%と1.07pt上昇した。輸入水準は過去5年レンジを大きく下回っているが、投入量もレンジ下限付近と低迷している。前週対比では、供給減需要増の構図となり、在庫は予想に反して減少した。なお、クッシング在庫は前週比77万バレル減の4112万6000バレルと、過去最高を記録した前週から減少している。SPRは、前週比変わらずの7億2654万2000バレル。

ガソリン在庫は2億0809万6000バレル(前週比158万3000バレル減)と、事前予想(150万バレル減)にほぼ一致した。9週連続の減少。在庫水準は前年同期比7.5%減と前週の5.3%減からマイナス幅を拡大している。生産量は日量915万6000バレルと前週から同30万6000バレル増加した。輸入量は同85万3000バレルと前週から同3万6000バレルの小幅減少。供給量が増加するなか、需要は同906万2000バレル(同11万9000バレル減)と減少した。前週比では需要減供給増の構図から、在庫減少幅は前週よりも急縮小した。なお、4週平均ベースの需要は同899万1000バレルと前年同期(同915万3000バレル)を1.8%下回っている。18日の全米レギュラーガソリン小売価格は前週比5.3セント高の384.4セントと4週連続の値上がり。2008年8月上旬以来の高水準。

中間留分在庫は前週比250万4000バレル減の1億4833万5000バレルと、2週連続で減少した。事前予想は前週比変わらずが見込まれていた。在庫水準は前年同期比0.4%減と前週の2.8%増からマイナスへと転じた。なお、中間留分在庫のうちディーゼル油在庫(ULSDおよび50-500ppmの従来型ディーゼル油)は前週比193万7000バレル減と2週連続の減少。一方のヒートンクオイル在庫(500ppm以上)は同56万7000バレル減とこちらは8週連続の減少。中間留分の生産量は日量416万1000バレル(同10万7000バレル増)と増加し、輸入量も同29万3000バレル(同19万2000バレル増)と増加した。一方需要は同411万2000バレル(同31万2000バレル増)と大幅に増加した。前週対比では需要供給ともに増加したが、需要の増加幅が上回った。18日の全米ディーゼル油小売価格は410.5セント(前週比2.7セント高)と4週連続の値上がり。2008年9月上旬以来の高い水準。

原油および石油製品在庫の合計(SPRを除く)は、10億3070万バレルと前週比670万バレル減、前年同期比2.8%減。石油製品需要(過去4週平均)は日量1908万バレルと、前年同期の同1885万6000バレルを1.2%上回っている。

「合成ゴムラテックス値上げへ = 日本エイアンドエル」

住友化学85%、三井化学15%の出資からなる合弁会社日本エイアンドエルは、合成ゴムラテックスについて値上げすることを明らかにした。対象製品および改定幅は、産業資材用SBRラテックスがプラス23円/kg以上、NBRラテックスがプラス33円/kg以上、VPラテックスがプラス33円/kg以上で、改定時期は5月1日納入分より。ナフサ価格高騰に伴う原料モノマーなどのコスト上昇分を製品価格に転嫁して採算を改善する。

「東アジアの2月のナフサ輸入量」

台湾財務省は20日、2月の貿易統計を公表した。これにより東アジア4カ国(日本、韓国、中国、台湾)のナフサ輸入量が出揃った。4カ国合計の輸入量は前月比3.1%減の466万5265トンとなった。前年同月に比べると2.0%増加した。各国の輸入量は、日本が161万0612トン(前月比0.3%減、前年同月比7.0%増)、韓国が171万6428トン(同2.9%減、2.7%増)、中国が20万2203トン(同25.8%減、18.1%減)、台湾が113万5967トン(同1.7%減、1.3%減)。なお、3月の韓国のナフサ輸入量は2月に比べ15.7%減となることが判明しており、日本も同輸入量は同程度の輸入減が予想される。

本レポートに掲載されている情報は、時間の経過または様々な後発事象によって予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。なお、掲載された情報は信頼できると判断した情報源に基づき作成したものです。株式会社アメレックス・エナジー・コム(以下、弊社)はこの完全性及び正確性に関する責任を負いません。また、本レポートに示した見解および予測は必ずしも適切かつ妥当なものとはならず、本レポート作成日における弊社の判断です。本レポートに掲載されている内容の著作権は、原則として弊社に帰属いたします。

Daily Market Report

「2万4000トン/年のポリシリコンプラント建設へ = OCI」

韓国化学大手 OCI は 20 日、約 1 兆 8000 億ウォンを投じ、2 万 4000 トン/年のポリシリコン第 5 プラントを全北セマングム産業団地に建設することを明らかにした。同プラントは今年の下半期に着工し、2013 年 12 月までに完成する予定。同社は昨年 12 月に生産能力 1 万トン/年の第 3 プラントを建設し、今年 10 月には第 3 プラントのデボトルネッキングにより能力を更に 1 万 5000 トン増強することを計画。また、2012 年第 4 四半期には、2 万トン/年の第 4 プラントの建設を計画している。第 5 プラント完成時には 8 万 6000 トン/年の生産能力を保有することになり、高まる高純度ポリシリコン需要に対応する。

「塩ビ樹脂国内出荷、8ヶ月連続の前年同月比プラス = 塩ビ工業・環境協会」

塩ビ工業・環境協会(VEC)は 20 日、塩ビ生産・出荷(原料・樹脂)をまとめた統計を発表した。同統計によると、塩ビ樹脂(PVC)の 3 月国内出荷は、前月比 3.4% 増の 9 万 5292 トンとなった。前年同月比では 3.3% 増と、8 ヶ月連続で前年実績を上回った。内訳は硬質用が 5 万 1957 トン(前年同月比 3.8% 増)、軟質用は 2 万 5010 トン(同 1.1% 増)、電線・その他用は 1 万 8325 トン(同 5.1% 増)とそれぞれ前年実績を上回った。輸出は前年同月比 46.6% 減の 3 万 4851 トンと、12 ヶ月連続で前年実績を下回った。出荷合計は前年同月比 17.4% 減の 13 万 0143 トンと 4 ヶ月連続で前年実績を下回った。生産は前年同月比 15.5% 減の 12 万 0692 トンと、5 ヶ月連続で前年実績を下回った。月末在庫は前年同月比 6.9% 減の 7 万 6409 トン。

塩ビモノマー(VCM)の 3 月国内出荷は、前年同月比 12.9% 減の 12 万 9351 トンと前年実績を 5 ヶ月連続で下回った。内訳は PVC 用が 12 万 2445 トン(前年同月比 15.0% 減)、その他用は 6906 トン(同 50.6% 増)。輸出は 8 万 2107 トンと前月から 35.9% 増加したが、前年同月を 5.7% 下回っている。出荷合計は 21 万 1458 トンと再び増加したが、前年実績を 10.3% 下回った。生産は前年同月比 13.7% 減の 21 万 2118 トン。なお、月末在庫は前年同月比 29.1% 減の 3 万 7405 トン。

(単位:トン)

	PVC					VCM				
	生産	国内出荷	輸出	出荷合計	月末在庫	生産	国内出荷	輸出	出荷合計	月末在庫
Oct-10	146,638	93,117	49,531	142,648	83,667	238,722	153,709	79,412	233,121	48,518
Nov-10	138,481	94,731	52,604	147,335	74,813	239,834	145,284	78,011	223,295	43,117
Dec-10	142,038	86,584	47,631	134,215	82,636	269,330	148,434	80,358	228,792	54,134
Jan-11	142,917	88,102	48,412	136,514	89,039	261,708	150,225	96,384	246,609	58,420
Feb-11	138,971	92,176	49,974	142,150	85,860	223,519	145,556	60,430	205,986	54,024
Mar-11	120,692	95,292	34,851	130,143	76,409	212,118	129,351	82,107	211,458	37,405

(出所:塩ビ工業・環境協会)

「3月のABS樹脂出荷、前年実績を下回る水準 = 日本ABS樹脂工業会」

日本 ABS 樹脂工業会が発表した統計によると、ABS 樹脂の 3 月の内需合計(同会加盟 6 社)は前月比 957 トン増の 2 万 2053 トンと再び増加した。前年同月に比べると 4% 下回る。用途別内訳は、車輛向けが前年同月比 20% 減と 2 ヶ月連続で前年実績を下回った。一般機器向けは同 14% 減と 3 ヶ月連続でマイナスとなり、その他向けは 11 ヶ月連続で前年実績を下回った。電気器具向けは前年同月比 9% 減と 5 ヶ月ぶりの前年実績割れ。一方、雑貨向けは同 23% 増、建材住宅部品向けは同 29% 増と 3 ヶ月ぶりにプラスに転じた。輸出は 3 ヶ月連続で増加し、前年同月と同水準。出荷合計は前年同月を 3% 下回った。

(単位:トン)

	用途						内需	輸出	出荷合計	耐候用
	車輛	電気器具	一般機器	建材住宅部品	雑貨	その他				
Oct-10	7,254	3,256	2,695	1,830	5,675	863	21,573	14,170	35,743	3,036
Nov-10	7,897	3,511	2,644	2,049	6,042	658	22,801	14,873	37,674	3,058
Dec-10	7,222	3,143	2,446	1,924	5,286	706	20,727	14,792	35,519	3,026
Jan-11	7,588	3,038	2,686	1,918	5,748	645	21,623	12,861	34,484	3,218
Feb-11	7,745	2,803	2,501	1,910	5,533	604	21,096	15,157	36,253	3,210
Mar-11	6,830	2,841	2,612	2,400	6,594	776	22,053	16,013	38,066	3,156

(出所:日本ABS樹脂工業会)

「2月の変性PPE輸入単価、安値トップ10」

2011 年 2 月の汎用エンブラの変性 PPE 等輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比 104 トン減の 1820 トン、輸入価額は 6 億 0310 万 6000 円となった。原産地別輸入数量の割合は、米国が 52%、シンガポールが 20%、韓国が 19%、台湾が 4%、中国が 3% となっている。価額を数量で割り返した 2 月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比 5 円安の 331 円/kg。貿易統計上で税番 3907.20.910 はポリアセタール以外のその他のポリエーテルの変性 PPE などが該当する。変性 PPE の統計として特定できないが、変性 PPE 等のポリエーテルの汎用性の高いグレードの輸入単価を税関別や国別に分けることで概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ 10 は、右表のとおり。なお、2 月の通関レートは、1 ドル = 81.76 ~ 83.42 円、日数による加重平均値は、1 ドル = 82.33 円。

税関	国名	2011年2月		CIF JAPAN	
		数量 (kg)	価額 (1000円)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
四日市	シンガポール	208,000	55,842	268	3,218 - 3,284
東京	中国	49,000	13,263	271	3,245 - 3,311
神戸	米国	19,455	5,309	273	3,271 - 3,338
東京	シンガポール	108,000	31,440	291	3,490 - 3,561
横浜	米国	209,701	62,505	298	3,573 - 3,646
東京	台湾	60,000	17,995	300	3,595 - 3,668
神戸	韓国	191,670	62,267	325	3,894 - 3,973
名古屋	韓国	152,760	50,134	328	3,934 - 4,014
東京	米国	703,894	235,783	335	4,015 - 4,097
博多	タイ	16,775	6,573	392	4,697 - 4,792

(出所:財務省)

Daily Market Report

2月のエポキシ樹脂輸入単価、安値トップ10

2011年2月の熱硬化性樹脂のエポキシ樹脂輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比225トン減の618トン、輸入価額は3億5075万1000円となった。原産地別輸入数量の割合は、韓国が26%、マレーシアが22%、フィリピンが22%、台湾が18%、シンガポールが4%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比8円高の567円/kg。貿易統計上のエポキシ樹脂統計値は、用途での区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用性の高いグレードの輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、右表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月		CIF JAPAN	
		数量 (kg)	価額 (1000円)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
博多	台湾	33,000	8,186	248	2,974 - 3,034
清水	台湾	17,500	4,395	251	3,011 - 3,072
神戸	台湾	17,500	4,629	265	3,171 - 3,235
大阪	ドイツ	2,250	647	288	3,447 - 3,517
神戸	韓国	750	217	289	3,468 - 3,539
名古屋	韓国	77,000	23,043	299	3,587 - 3,660
大阪	イスラエル	10,000	3,000	300	3,596 - 3,669
東京	韓国	80,000	25,346	317	3,798 - 3,875
名古屋	台湾	10,325	3,703	359	4,299 - 4,387
門司	韓国	900	337	374	4,489 - 4,580

(出所:財務省)